福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1305集

有田・小田部 57

― 有田遺跡群第 262 次調査報告 ―

２０１７

福 岡 市 教 育 委 員 会

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1305集

ARI TA　　KO TA BE

有田・小田部 57

―有田遺跡群第262次調査報告―

遺跡略号　ART－262
調査番号　1530

2017

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、数多くの文化が残されています。その中でも早良平野は大陸との交流が古くから栄え、遺跡が多く残されています。これらの文化財を保護し、後世に伝えることは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化により、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市ではそのような開発によってやむを得ず失われていく遺跡について事前に発掘調査を行い記録保存に努めています。

本書は、宅地造成に伴う有田遺跡群第 262 次発掘調査について報告するものです。この調査では、古墳時代後期から古代にかけての集落を検出するとともに、旧石器時代から中世にかけての遺物が出土しました。これらは早良平野の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後に土地所有者様ならびに事業主様をはじめとする多くの関係者の方々には、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月 27 日

福 岡 市 教 育 委 員 会
教育長　星 子 明 夫

例　言

1．本書は、福岡市早良区小田部２丁目 49・50・51・53 における宅地造成に先立ち、福岡市教育委員会が平成 27 年 11 月 4 日から平成 28 年 2 月 3 日にかけて発掘調査を実施した有田遺跡群第 262 次発掘調査の報告である。
2．発掘調査は上記の主体により行われ、調査は福岡市埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）の井上繭子・山本晃平が担当した。
3．報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
4．本書に掲載した遺構の実測図作成は、井上・山本が行った。
5．本書に掲載した遺物の実測図作成は山本が行った。
6．本書に掲載した遺構の写真撮影は井上・山本が、遺物の写真撮影は山本が行った。
7．本書に掲載した挿図の製図は山本が行った。
8．本書で用いた方位は磁北である。
9．本書で用いた座標は世界測地系による。
10．調査で検出した遺構については、通し番号を付している。
11．本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管され、活用されていく予定である。
12．本書の執筆・編集は井上と協議の上、山本が行った。

有田遺跡群第 262 次発掘調査基本情報

遺　跡　名	有田遺跡群	**調　査　次　数**	第 262 次	**遺　跡　略　号**	ART－262
調査番号	1530	**分布地図図幅名**	原82	**遺跡登録番号**	0309
申請地面積	1400㎡	**調査対象面積**	850㎡	**調　査　面　積**	719㎡
調査期間	平成27年11月4日～平成28年2月3日			**事前審査番号**	26－2－837
調　査　地	福岡市早良区小田部２丁目49、50、51、53番				

本　文　目　次

第１章　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　1　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2　調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　3　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　4　周辺の調査事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第２章　調査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　1　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　2　遺構と遺物
　　1）掘立柱建物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　　2）土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　　3）その他出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　　4）旧石器時代の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第３章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

挿　図　目　次

第１図　有田遺跡群周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第２図　有田遺跡群調査地点位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第３図　有田遺跡群第262次調査地点周辺遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第４図　有田遺跡群第262次調査遺構配置図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第５図　掘立柱建物01・02・03・04（1/80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第６図　掘立柱建物05・06（1/80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第７図　掘立柱建物07・08・09（1/80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第８図　掘立柱建物出土遺物（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第９図　土坑実測図（280・285は1/40、その他は1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第10図　土坑出土遺物（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第11図　その他の出土遺物（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第12図　グリット配置図（1/400）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第13図　遺構面出土石器（1/1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

表　目　次

表１　有田遺跡群調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～6

図　版　目　次

図　版１　（1）南側調査区全景（西から）
（2）北側調査区全景（南西から）
図　版２　（1）北側拡張部全景（東から）
（2）南側拡張部全景（東から）
（3）掘立柱建物 01（南から）
図　版３　（1）掘立柱建物 02（南から）
（2）掘立柱建物 03（南から）
（3）掘立柱建物 04（西から）
図　版４　（1）掘立柱建物 05（西から）
（2）掘立柱建物 07（南から）
（3）掘立柱建物 08（南から）
図　版５　（1）土坑 039（北から）
（2）土坑 280（北から）
（3）土坑 280 土層断面（北西から）
図　版６　（1）土坑 069（北から）
（2）土坑 284（西から）
（3）土坑 317（南から）
図　版７　（1）掘立柱建物出土遺物（内面）
（2）掘立柱建物出土遺物（外面）
図　版８　（1）土坑出土遺物（内面）
（2）土坑出土遺物（外面）
（3）鉄滓
（4）ナイフ型石器

第１章　はじめに

１．調査に至る経緯

平成26年12月18日付に福岡市早良区小田部２丁目49、50、51、53の宅地造成に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書が福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財審査課（現･埋蔵文化財課）に提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である有田遺跡群に所在し、周辺の確認調査・発掘調査において遺跡の存在が確認されている。そのため、当該地にも埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断し、平成27年１月13日及び10月１日・６日に確認調査を行った。その結果、地表面から20～30cm下で古代から中世にかけての遺構と遺物を確認した。これらから埋蔵文化財審査課では、遺構の保全に関して申請者と協議を行った。

その結果、宅地造成において埋蔵文化財への影響を回避できないことから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。そして平成27年10月27日付で土地所有者である個人を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年11月４日から発掘調査を行い、平成28年２月３日に終了した。

２．調査の組織

調査委託：個人

調査主体：福岡市教育委員会（発掘調査：平成27年度・整理報告：平成28年度）

調査総括：経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）

課長	常松幹雄（27・28年度）
調査第１係長	吉武学（27・28年度）

調査庶務：経済観光文化局文化財部埋蔵文化財審査課（現・埋蔵文化財課）

課長	米倉秀紀（27年度）
管理係長	大塚紀宜（27・28年度）
管理係	川村啓子（27年度）
	入江よう子（28年度）

事前審査：同課

事前審査係長	佐藤一郎（27・28年度）
主任文化財主事	池田祐司（27・28年度）
文化財主事	大森真衣子（27・28年度）

調査担当：経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）

主任文化財主事	井上繭子
文化財主事	山本晃平

発掘作業：安陪裕紀　安部みゆき　石井清子　井上稔子　岩永いさ子　上野道郎　尾崎泰正　瀬戸啓治　高橋茂子　時吉ひとみ　平江裕子　深溝嘉江　宮原豊　柳井順子　山田ヤス子　脇田誠二

整理作業：相戸力　有島美江　箱嶋ひかり　林由紀子

3. 遺跡の位置と環境

玄界灘に北面し、背後に脊振･三郡山系をひかえる福岡市には、これら山系から派生する丘陵によって画される平野が展開しており、東側から柏屋、福岡、早良、今宿平野と呼称される。今回報告する有田遺跡群は、これらのうち早良平野に位置している。

早良平野は現在の行政区分での早良区・西区に位置する。同平野は脊振山系から西方に派生する西山・飯盛山・叶岳に南から西に限られ、東は油山から北に派生する低丘陵に囲まれた沖積平野である。有田遺跡群は平野の北側、室見川右岸にある独立中位段丘上に立地している。この段丘は、南北約1.7km、東西約0.7kmに広がり、遺跡中央の最高所では標高約15mをはかる。室見川や金屑川による浸食を受けるため、大小の谷が形成され、北に八手状に広がる独特な形状を呈している。

有田遺跡群は旧石器時代から近世までの複合遺跡である。本遺跡群は区画整理事業に伴う1967年の九州大学考古学研究室による第1次調査を端緒とし、1975年以降は本市教育委員会を主体にこれまで263次を超える調査が行われてきた。以下、時代別に既往の調査から得られた知見を概略する。

旧石器時代は、ローム層からナイフ形石器やポイント等の遺物が出土しているがまとまりを欠き、遺構についても明確なものは確認されていない。ただ第6次、第131次調査地点では該期の包含層を検出している。後世の大規模な削平による影響を受けたため、当時の状況を明らかにするに至っていない。

縄文時代の状況についても全容は不明だが、第5次、第116次調査地点を中心に台地南西部に中期から後期にかけての貯蔵穴群が検出されている。また本遺跡群の南西に位置する有田七反田前遺跡から凸帯文土器などが出土しており、当地域における終末期の状況を窺うことができる。

続く弥生時代になると、台地の各屋根上に遺構・遺物が分布する。台地南半分の中央に位置する第2次、第45次、第54次、第77次調査地点にて、台地の高所を楕円形に囲むように断面「V」字形の環濠が長径約300m、短径約200mの規模で巡ることが確認されている。その後も後続して別地点にも環濠が認められ、各地に集落が展開する。また前期後半～中期を中心とした甕棺墓が数多く検出され、銅矛や銅鏡などが副葬されており、周辺地域における集落の格の高さを物語っている。中期までは台地の各所で遺構が確認されているが、後期になると遺構数が概ね減少をたどり、活動規模が極めて縮小化している。

古墳時代では、竪穴住居等から軟質土器や陶質土器が多く出土し、朝鮮半島とのかかわりの強さが窺うことができる。後期から古代にかけて、柵列や溝に区画された大型の倉庫群や建物群が台地高所付近に造営されており、第189次調査地点では、早良群衙の正殿と推定される建物群が見つかっている。その北側の第3次、第49次、第81次、第124次、第164次、第216次調査地点で平行する溝状遺構が2条検出されており、古代官道の側溝と推定されている。早良平野は律令期では早良郡にあたり、「和名抄」によると、比伊、能解、額田、早良、平群、田部、曽我の7群が存在する。本遺跡群はそれらのうち田部郷に含まれるものと考えられる。

中世では戦国期の遺構が顕著に見られ、濠で方形区画された遺構群が数箇所で確認されており、大内氏の支配下で設けられた郡代や在地の有力土豪の城館の可能性が考えられている。また江戸時代に書かれた『筑前国続風土記拾遺』には大友氏の家臣である小田部氏の里城が有田村にあったと書かれており、有田の小田部城がそれではないかと考えられる。第54次、第68次、第74次、第86次調査地点などで濠が確認されており、小田部城に関わるものと思われる。

1　有田遺跡群　　2　原遺跡　　3　原東遺跡　　4　飯倉遺跡群　5　藤崎遺跡
6　西新町遺跡　　7　次郎丸高石遺跡　8　免遺跡　9　田村遺跡

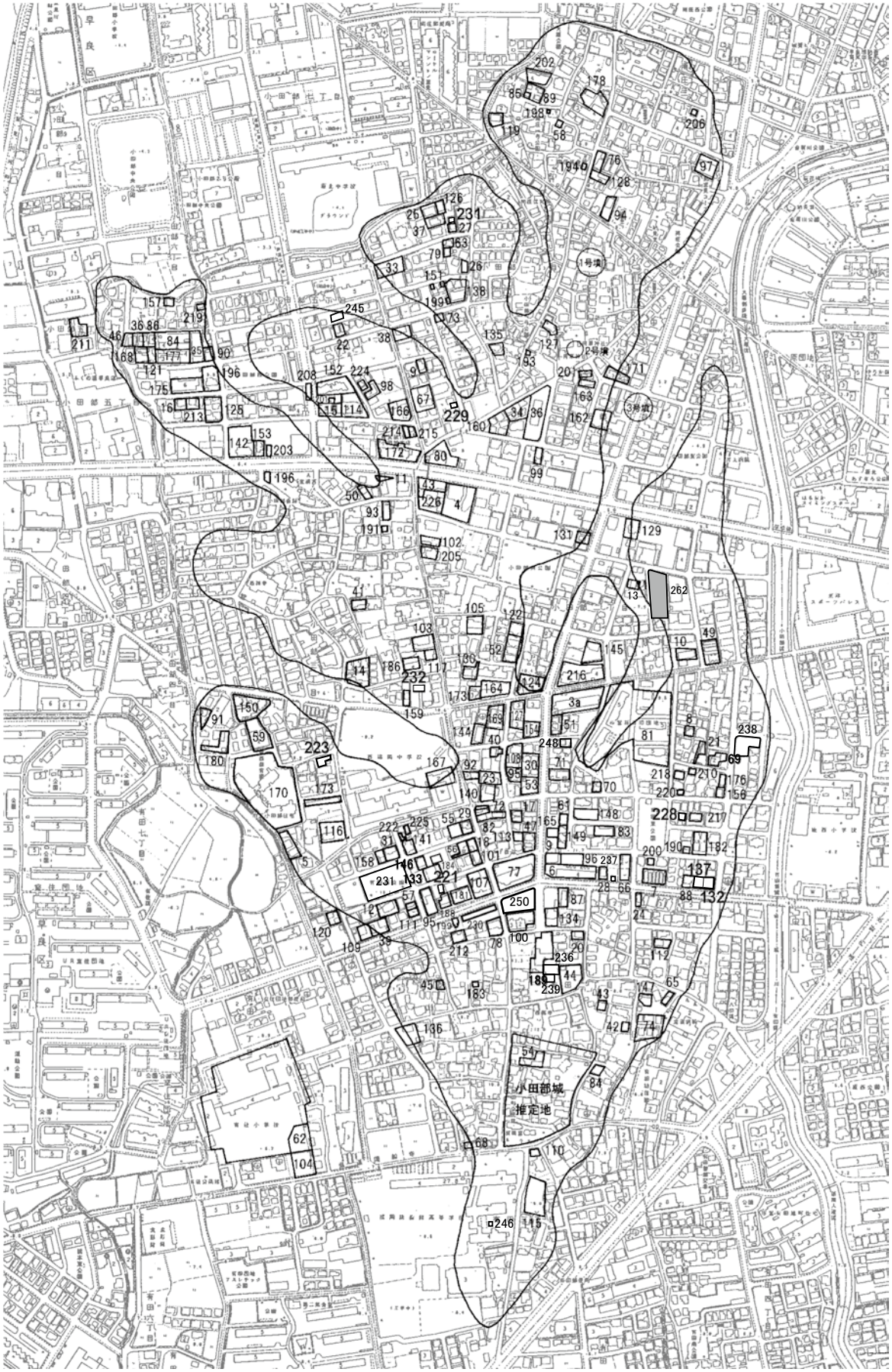
第１図　有田遺跡位置図（1 / 25,000）

表１　有田遺跡群調査一覧

調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)	調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)
1	1	大字有田	500	51	113	有田1丁目23－6	314
2a	2	大字有田	900	52	139	小田部2丁目110－2	483
2b		南庄		53	113	有田1丁目28－3,4	425
3a	43	小田部1丁目152	1000	54	427	有田2丁目16－1	233
3b	43・155	有田1丁目23－1	1836	55	110	有田1丁目33－3	290
4	470	小田部2丁目139		56	113	有田1丁目32－9	146
5	113	小田部3丁目184,185	750	57	113	有田1丁目37－2	109
6	377	有田1丁目20－3		58	377	南庄3丁目185,186	167
7	81	有田1丁目8－10	573	59	84・139	小田部3丁目177	838
8	81	有田1丁目13－12	191	60	139	小田部3丁目178－2	21
9	870	小田部1丁目174－12	135	61	377	有田2丁目21－2	119
10	870	小田部2丁目54	200	62	95	有田七田前391－3外	1260
11	870	小田部3丁目312	67	63	110	小田部1丁目224	115
12	870	有田1丁目37－11	304	64	155	小田部5丁目141－1ほか	311
13	870	小田部2丁目73－2	60	65	377	有田2丁目7－10	36
14	870	小田部3丁目281－2	372	66	113	有田1丁目20－1	503
15	971	小田部1丁目54－1	368	67	377	小田部1丁目171ほか	685
16	870	小田部5丁目	163	68	427	有田2丁目17－24	76
17	58	有田1丁目20－9	136	69	427	有田1丁目13－10	202
18	1249	有田1丁目32－1	50	70	173	有田1丁目17－1,2	136
19	96	有田1丁目24－4		71	173	有田1丁目22－4,7	341
20	年報27	有田2丁目14－20		72	173	有田1丁目26－3	482
21	58	有田2丁目13－16	155	73	427	小田部1丁目189	62
22	58	小田部5丁目25	119	74	471	有田2丁目7－80	1010
23	58	有田1丁目26－2	329	75	110	有田1丁目27－11,7	424
24	58	有田2丁目10－7	79	76	113	南庄3丁目114－3	289
25	58	小田部1丁目237－1	101	77	471	有田1丁目30－1～3	385
26	58	小田部1丁目219	133	78	471	有田2丁目20－2	398
27	58	小田部1丁目241	89	79	538	小田部1丁目225－1	109
28	81	有田1丁目20－2	125	80	547	小田部1丁目168	764
29	81	有田1丁目33－2	256	81	129	有田1丁目	8000
30	110	有田1丁目27－2	596	82	139	有田1丁目29－13,14	405
31	81	有田1丁目34－2	339	83	139	有田1丁目127－3	300
32	96	有田1丁目29－9	232	84	1177	有田2丁目7－66	196
33	81	小田部1丁目230,231	296	85	1177	南庄3丁目261－1	93
34	81	小田部1丁目157	587	86	113	小田部5丁目143－3	220
35	173	小田部5丁目150	181	87	139	有田2丁目12番地6	230
36	96	小田部5丁目143－2	241	88	1177	有田1丁目8－7	221
37	96	小田部1丁目237－3	147	89	1177	南庄3丁目261－1	230
38	96	小田部1丁目198	131	90	1177	小田部5丁目149－1	226
39	113	有田1丁目37－82	405	91	1177	小田部3丁目153	282
40	96	有田1丁目26－1	137	92	1177	有田1丁目26－6	195
41	96	小田部3丁目307	73	93	1177	小田部3丁目401	54
42	96	有田2丁目85	126	94	1177	南庄3丁目172	279
43	155	有田2丁目7－88	403	95	139	有田1丁目31－4	657
44	110	有田2丁目14－9	223	96	1177	有田1丁目20－7	426
45	96	有田2丁目22－15	24	97	139	南庄3丁目90，91，92	305
46	110	小田部5丁目143－1	164	98	1177	小田部5丁目44	257
47	110	有田1丁目28－7,8	372	99	1177	小田部1丁目147,150	252
48	110	小田部2丁目140	458	100	212	有田2丁目13－2	650
49	110	小田部2丁目20番、21番	384	101	139	有田1丁目32－2	215
50	377	小田部3丁目11－2,6－2	123	102	173	小田部2丁目154	330

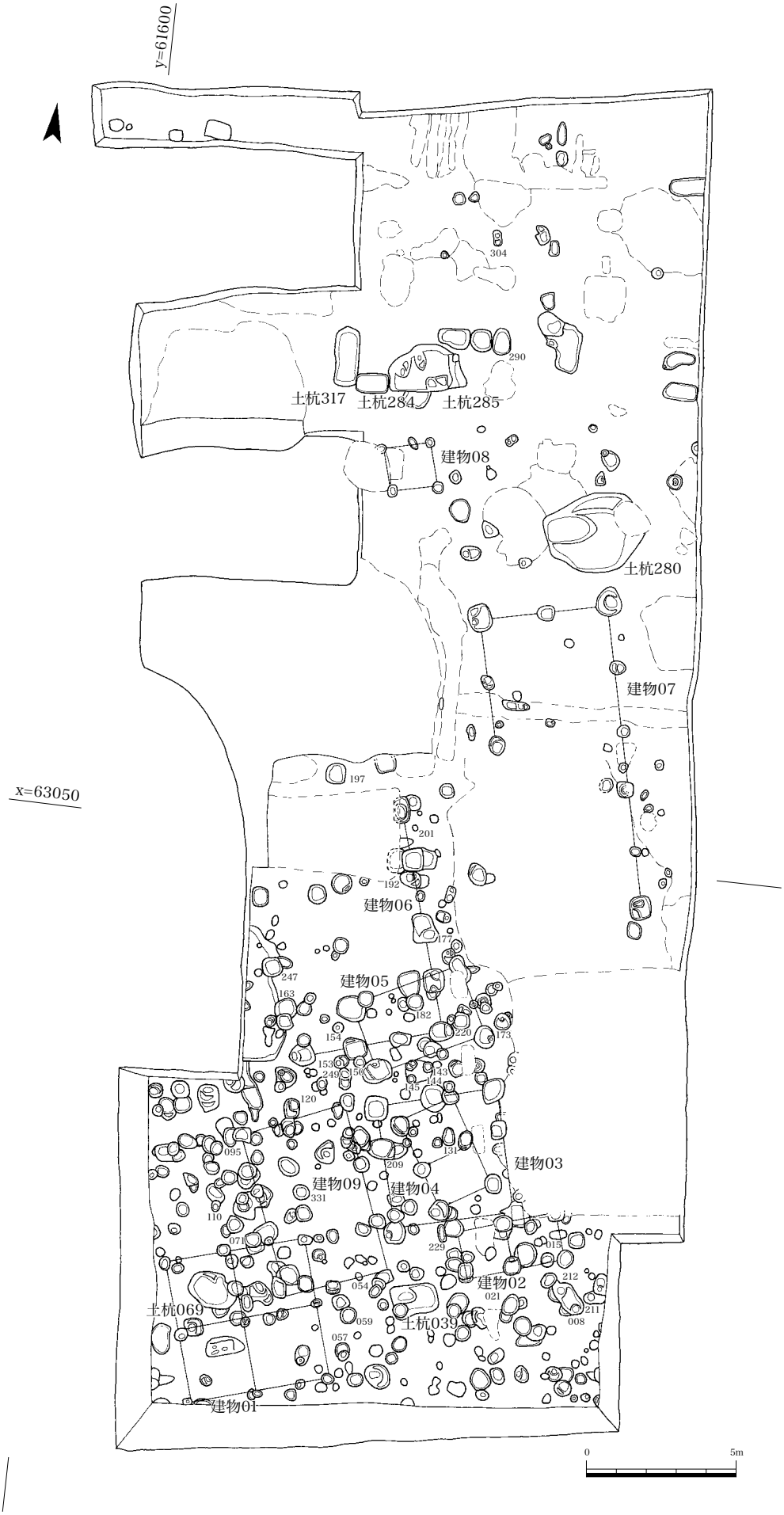
調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)	調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)
103	212	小田部3丁目287	501	153	426	小田部5丁目70,71	263
104	九州文化史紀要	有田七前田387－1	544	154	307	有田1丁目24－2	382
105	173	小田部2丁目178（18－8）	660	155	266	有田地内	573.5
106	651	小田部5丁目162番地	706	156	264	有田1丁目12－2	131
116	308	小田部3丁目189－1	435	157	264	小田部5丁目131－1	128
107	234	有田1丁目31－1/－2	914	158	308	有田1丁目34-3	214
108	155・173	有田1丁目27－1外	642	159	307	小田部3丁目251	207
109	173	有田1丁目37－8	110	160	339	小田部3丁目251	508
110	308	有田3丁目71	117	161	266	有田地内	200
111	173	有田1丁目37－3	64	162	264	小田部一108他	132
118	266	有田一・2丁目地内	1368	163	307	小田部1丁目123	150
112	308	有田2丁目9－2	160	164	308	小田部2丁目106	416
113	234	有田1丁目28－9	138	165	307	有田1丁目21－11	198
114	308	小田部5丁目51－2外	888	166	年報6	小田部5丁目5－39外	409
115	684	有田3丁目8－53	160	167	434	小田部3丁目32－1	520
116	308	小田部3丁目189－1	335	168	684	小田部5丁目154－1	455
117	173	小田部3丁目3－14	163	169	339	有田1丁目25－1	175
119	264	南庄3丁目270－1, 271－4	203	170	473	小田部3丁目179－1	750
120	234	有田1丁目38－3，9	77	171	870	小田部1丁目104.507	447
121	264	小田部5丁目154－2	165	172	472	小田部5丁目61	717
122	173	小田部2丁目11－16	375	173	473	小田部3丁目189－1.198	250
123	266	有田1・2丁目 小田部2～4丁目	2544	174	年報8	小田部2丁目194.195	143
124	725	有田1丁目24－4	650	175	513	小田部5丁目160～164	640
125	340	小田部5丁目171	722	176	470	有田1丁目6－1	123
126	264	小田部1丁目34－9	111	177	513	小田部5丁目150－3	480
127	264	小田部1丁目418－1	180	178	512	南庄3丁目214	747
128	264	南庄3丁目116の一部	213	179	513	小田部2丁目102番地外	120
129	264	小田部2丁目38	386	180	684	小田部3丁目158－1番地	292
130	212	小田部2丁目185－2	293	181	574	有田2丁目31－4	464
131	234	小田部2丁目131	118	182	657	有田1丁目10－4	351
132	1067	有田1丁目8－3	142	183	870	有田2丁目24－26	66
133	234	有田1丁目32－4	443	184	574	有田1丁目32－8	150
134	212	有田2丁目12－3・4	406	185	年報12	小田部1丁目126	120
135	340	小田部1丁目361	145	186	657	小田部3丁目285,286	252
136	378	有田2丁目22－31	460	187	657	有田2丁目12－5	494
137	1067	有田1丁目8－4	134	188	608	有田1丁目31－6	249
138	308	小田部1丁目204	801	189	649	有田2丁目	1290
139	266	小田部2・3丁目	5500	190	657	有田1丁目1－10－7	27.2
140	340	有田1丁目29－10	155	191	870	小田部3丁目	169.5
141	378	有田1丁目33－6	250	192	657	有田2丁目13－3	72.7
142	378	小田部5丁目72	790	193	657	小田部1丁目393	9
143	378	小田部5丁目73，74	562	194	784	南庄3丁目181	78
144	264	有田1丁目25－4	405	195	784	小田部5丁目16－3	131
145	340	小田部2丁目90	682	196	784	小田部3丁目16・17－2	69
146	234	有田1丁目32－6	80	197	年報15	小田部1丁目33－13	48
147	426	有田2丁目13－5	228	198	870	南庄3丁目205－5	45
148	340・426	有田1丁目18－4	414	199	870	有田2丁目20－8他	45
149	234	有田1丁目21－3	145	200	870	有田1丁目8番14	169
150	725	小田部3丁目163	1087	201	年報16・784	小田部1丁目16－2	105.6
151	308	小田部1丁目203・207	70	202	735	南庄3丁目255の一部、256	502
152	265	小田部5丁目48,49	770	203	784	小田部5丁目82－1・－2	119.4

調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)	調査次数	報告書(集)	所　在　地	調査面積(㎡)
204	784	有田1丁目25－13、－12	74	234	1134	有田1丁目40	745.5
205	869	小田部2丁目155－1,156	346	235		有田1丁目32番5、32－14	270.5
206	870	南庄3丁目72番3	66	236	1135	有田2丁目14番35, 14番10 14番34	113
207	年報18	有田1丁目16－3	50	237	1135	有田一丁目20－1	22.5
208	年報19	小田部5丁目87－2、87－3	91	238	1176	有田1丁目3番1, 3番12	243
209	年報19	小田部5丁目49－2、50－1,51－2、54－1	67	239	1135	有田2丁目14番36	95
210	870	有田1丁目12－9	40	240	年報26	小田部五丁目38番2他	84
211	871	小田部5丁目193	433	241		有田一丁目10番11	69.3
212	年報19	有田2丁目20－10	195	242		有田1丁目25－16	44.2
213	年報19	小田部5丁目170－1	106	243		小田部2丁目191番	56.7
214	年報19	小田部5丁目60番の一部	128	244		有田一丁目10番5	167
215	870	小田部5丁目60番の一部	48	245	1214	小田部5丁目20番,21番	185
216	919	小田部2丁目91、92－1、92－2	1405.3	246	1215	有田3丁目9番1号	104.2 (93.2)
217	年報20	有田1丁目11－4	39.37	247		有田一丁目32番11	203
218	920	有田1丁目12－7	95.8	248	1249	有田1丁目22番1の一部	68
219	920	小田部5丁目15－5	32.4	249		小田部2丁目57	128.9
220	年報20	有田1丁目12－6の一部	37.4	250	1250	有田2丁目13番1・13番5	811
221	1067	有田1丁目31－5	59.17	251		小田部1丁目226－2、226－6	318.7
222	920	有田1丁目31－5	38.1	252		小田部1丁目226－1, 226－3,225－3	245.9
223	1067	小田部3丁目204－2	107.14	253	年報28	有田一丁目13番4	15
224	920	小田部5丁目47－1、47－2	98.5	254		小田部1丁目174番1	93.4
225	920	有田1丁目33－7	34.5	255		小田部1丁目34番	
226	1024	小田部2丁目139ほか	810	256		小田部二丁目55番5	35.1
227	年報22	小田部1丁目387番1	81	257		有田1丁目18番1	73.1
228	1067	有田1丁目11番9	71	258		小田部5丁目134番2, 131番4	115
229	1067	小田部1丁目177番4	26	259		小田部2丁目	
230	1068	有田2丁目20－1,20－13	300	260		小田部2丁目56番の一部	86.79
231	1067	小田部1丁目216－1	80.61	261		有田1丁目28番1	
232	1067	小田部3丁目247番	202	262	1305	小田部2丁目49他	719
233		有田1丁目8番8	131.5	263		小田部2丁目4番地	



第２図　有田遺跡群調査地点位置図（1 / 7,500）

第３図　有田遺跡群第262次調査地点周辺遺構配置図（1 / 1,000）



第４図　有田遺跡群第262次調査地点遺構配置図（1 / 200）

4. 周辺の調査事例（第３図）

今回報告する第262次調査地点における周辺の既存の調査事例を概観する。

本調査地点の周辺では、第10次、第13次、第49次、第129次調査が行われている。有田遺跡群の他の場所に比べると調査事例が比較的少ない。最も近接しているのは第13次調査で、本調査地点の東側に位置する。黒褐色土の包含層とピットが検出されており、明確な遺構は確認されていない。北側では第129次調査が行われている。遺構の残りは良くないが、台地の周縁に沿って、古墳時代後期の土坑が確認されている。また台地下の低地部から弥生土器が出土している。南側を見てみると、第10次調査と第49次調査が行われている。第10次調査でも古墳時代後期の土坑を3基検出している。第49次調査では、中世の土坑墓１基、土坑２基、溝状遺構２条、古墳時代前期のピット検出されている。

以上のように、今回調査した第262次調査地点の周辺の既存の調査では、明確な遺構が少なく、建物などの集落は確認されていない。この地域は八手状に延びる台地の一番東側に位置しており、また第13次や第129次調査地点は台地周縁部にあり、後世の削平を受けた結果もあろうが、元々遺構が少ない場所であったと思われる。

参考文献

福岡市教育委員会1984『有田・小田部5』福岡市埋蔵文化財調査報告書第110集
福岡市教育委員会1991『有田・小田部12』福岡市埋蔵文化財調査報告書第264集
福岡市教育委員会1995『有田・小田部22』福岡市埋蔵文化財調査報告書第427集
福岡市教育委員会2000『有田・小田部33』福岡市埋蔵文化財調査報告書第649集
福岡市教育委員会2006『有田・小田部41』福岡市埋蔵文化財調査報告書第870集
福岡市教育委員会2007『有田・小田部43』福岡市埋蔵文化財調査報告書第919集
福岡市教育委員会2014『有田・小田部54』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1215集

第２章　調査の記録

1．調査の概要

今回報告する有田遺跡群第262次調査は、福岡市早良区小田部２丁目に所在する。調査地点は北へ八手状に分岐して広がる有田・小田部台地の一番東側に位置する台地の西側斜面上に位置する。

遺構検出は重機で遺構面である鳥栖ローム上面まで剥ぎ取って実施した。遺構面は北東から南西に向かい傾斜して落ちている。調査区南側は表土から約150㎝下で、北側は表土から約20～50㎝下で遺構面となる。削平を受けていない南側は遺構の残りは良いが、北側は遺構面が造成により削平を受けており、遺構の残りは少ない。検出遺構は掘立柱建物が９棟、土坑６基、その他多くの柱穴・ピットを確認した。出土遺物はコンテナ６箱である。

発掘調査は平成27年11月４日に着手した。まず重機で遺構面上面まで剥ぎ取りを行ない、併行して発掘機材の搬入などを実施した。試掘調査の結果から申請地の北側には遺構がないことから、遺構が検出された範囲を調査区に設定した。そして廃土置き場を確保するために調査区を南北に分割して調査を行った。まず南側2/3を調査し平成28年１月５日に終了した。次に土砂を反転し、残りの北側1/3を１月８日から調査を開始し、１月26日に終了した。最後に段丘の落ちと遺構の有無の確認のため、北西側にトレンチを２本入れ、調査区を拡張し調査を行った。平成28年２月３日に機材を撤収、調査を完了した。

2．遺構と遺物

以下、遺構種別ごとに検出遺構及び出土遺物について報告する。

1）掘立柱建物

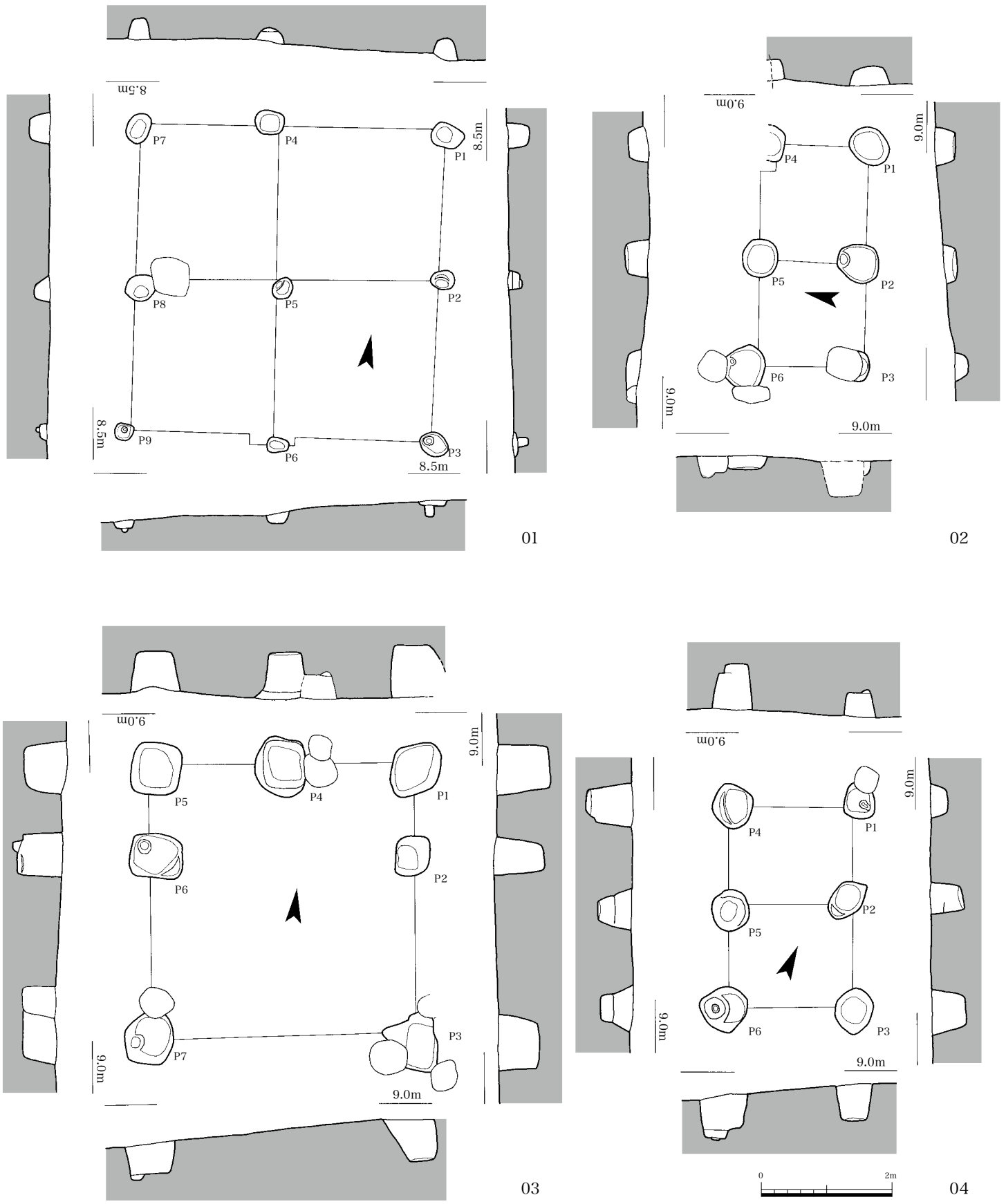
掘立柱建物01（第５図、図版２）　調査区の南西隅で確認された２間×２間の総柱建物である。主軸方位はＮ－10°－Ｗ。梁行約460㎝、柱間は約216㎝、桁行約480㎝、柱間240㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約30㎝～50㎝をはかる。

出土遺物（第８図）　１は須恵器の坏蓋。P7から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好で胎土は密で灰白色。２は須恵器の坏身。P1から出土。口径は不明だが、残存高は4.6㎝。調整は回転ナデ。焼成は良好で、胎土は1㎜以下の砂粒を含む。色調は灰色～灰白色。3･4は須恵器の甕。３はP7から出土。外面の調整は擬格子叩き、内面は同心円の当て具が重なった青海波を施す。焼成は良好で胎土は密。色調は灰色～灰白色。４はP1から出土。外面調整は平行叩きのちナデを行っている。内面は青海波を施す。

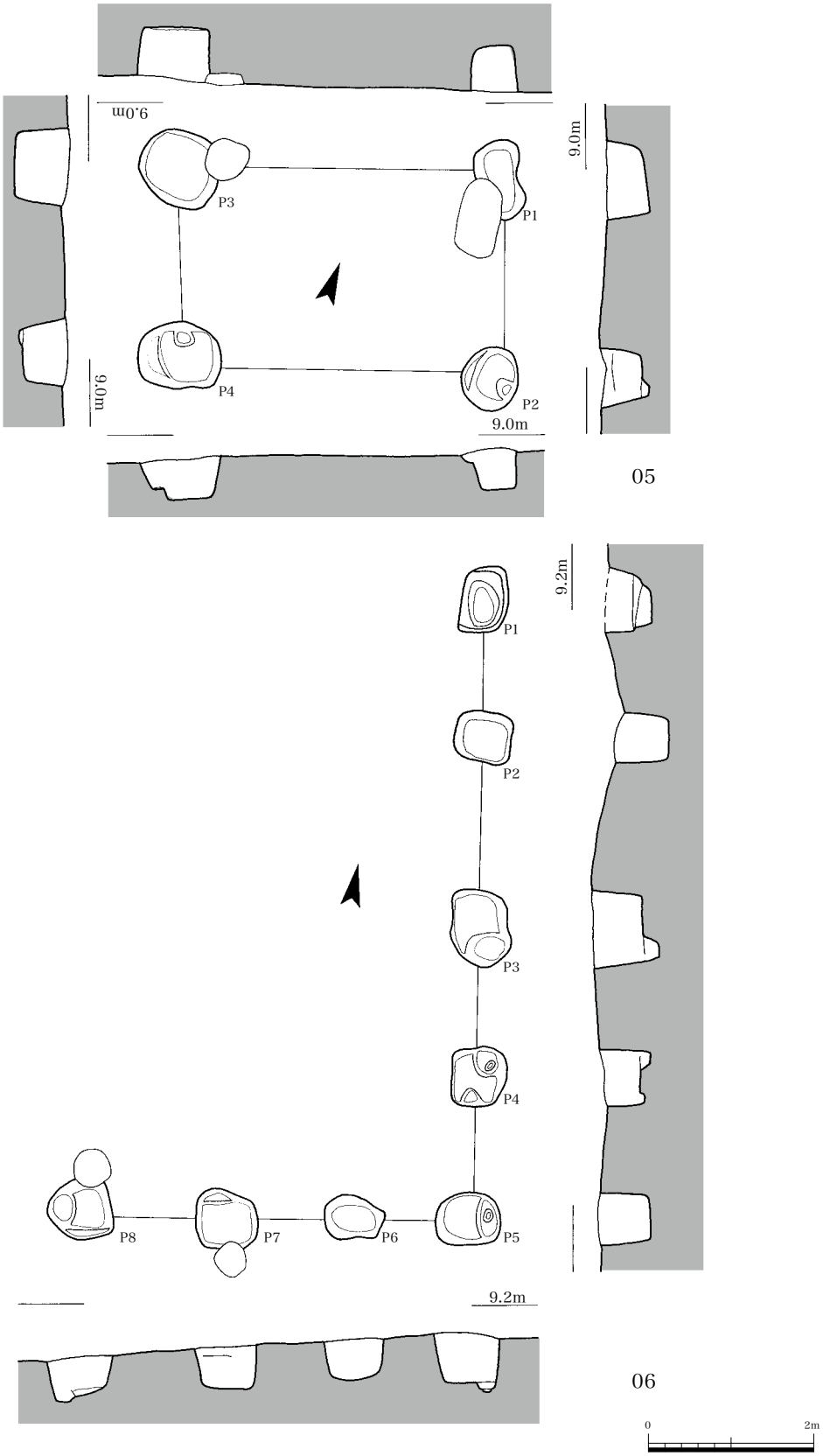
掘立柱建物02（第５図、図版３）　調査区南東側に位置し１間×２間の建物である。主軸方位はＮ－80°－Ｅ。梁行約160㎝、桁行約340㎝、柱間は約180㎝をはかる。柱穴の平面形は円形で、径約60㎝をはかる。

出土遺物（第８図）　５は須恵器の坏蓋。P2から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密で灰黒色。６は須恵器の甕の口縁部。P3から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密で黒灰色～灰白色を呈する。７は土師器の甕の口縁部。P3から出土。法量は不明。調整はナデ。焼成はやや不良。胎土は１～2㎜程の砂粒を含む。色調は茶褐色～淡茶褐色。33は鉄滓。P5から出土。長さ5.1㎝､幅2.6㎝、厚さ1.6㎝。磁着性はなし。色調は茶褐色。表面にメタルと思われるものが見える。

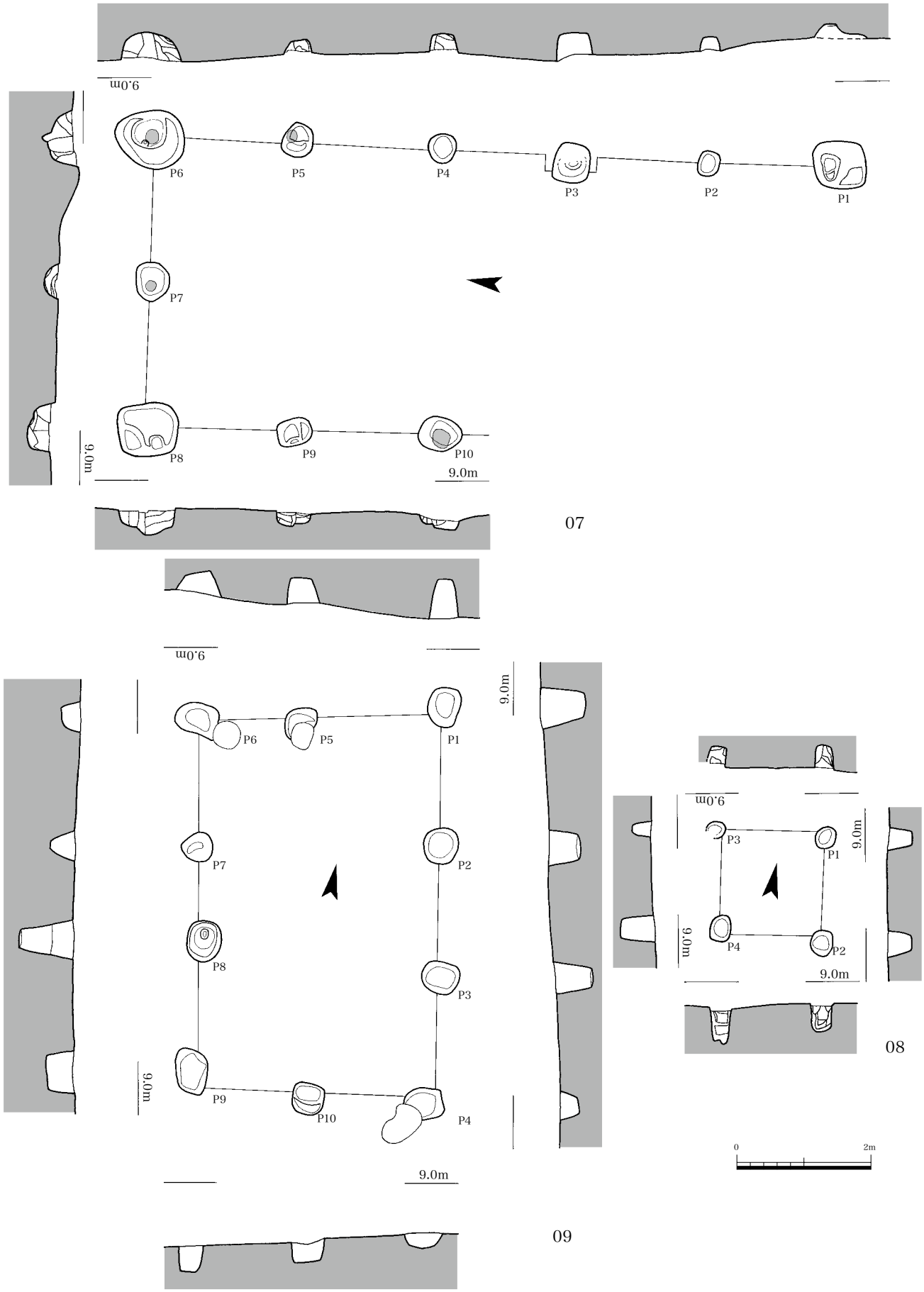
掘立柱建物03（第５図、図版３）　調査区南側に位置し、２間×３間と推定される建物である。桁行の一部柱穴が確認できていないが、柱穴の間隔から３間を推定した。主軸方位はＮ－10°－Ｗ。梁行約400㎝、柱間は約200㎝、桁行約410㎝、柱間は約140㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～隅丸長方形で、径約60㎝～100㎝をはかる。掘立柱建物04と重複しており、切り合い関係から建物03の方が古い。



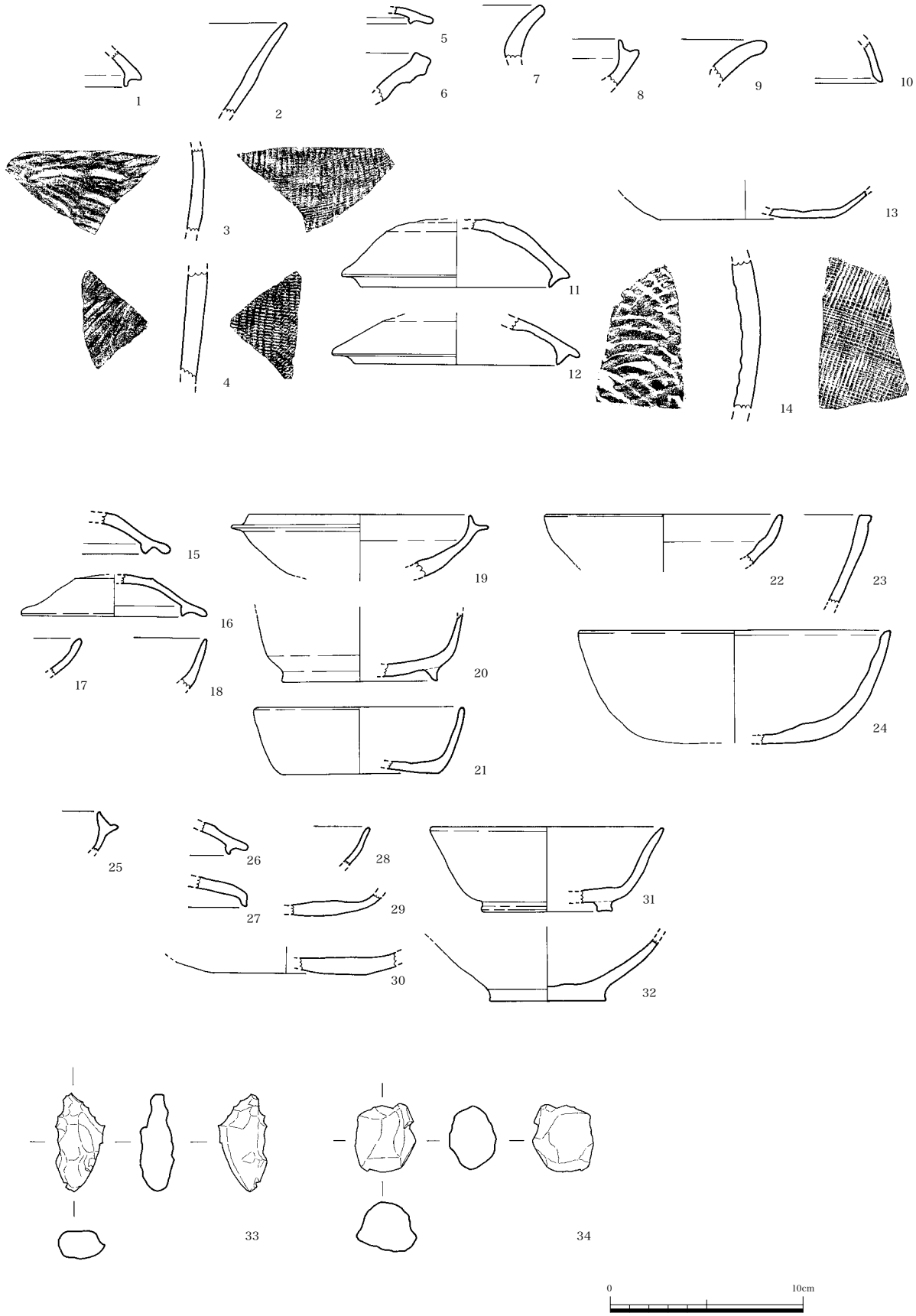
第5図　掘立柱建物01・02・03・04（1 / 80）



第6図　掘立柱建物05・06（1 / 80）



第7図　掘立柱建物07・08・09（1 / 80）



第８図　掘立柱建物出土遺物（1 / 3）

出土遺物（第８図）　８は須恵器の坏身。P4から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密で、灰白色。９は土師器の甕。P2から出土。調整はナデ。焼成はやや不良。胎土は１～2mm程の砂粒含む。色調は茶褐色～淡茶褐色。

掘立柱建物04（第５図、図版３）　調査区の南側に位置し、１間×２間の建物である。主軸方位はＮ－20°－Ｗ。梁行約190㎝、桁行約300㎝、柱間は約150㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約50㎝～ 80㎝をはかる。掘立柱建物03と重複しており、建物04が新しい。

出土遺物（第８図）　10は須恵器の坏蓋。P1から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。色調は灰黒色。

掘立柱建物05（第６図、図版４）　調査区南側に位置し、１間×１間の建物である。主軸方位はＮ－°70°－Ｅ。梁行約240㎝、桁行約390㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約80㎝～ 100㎝をはかる。

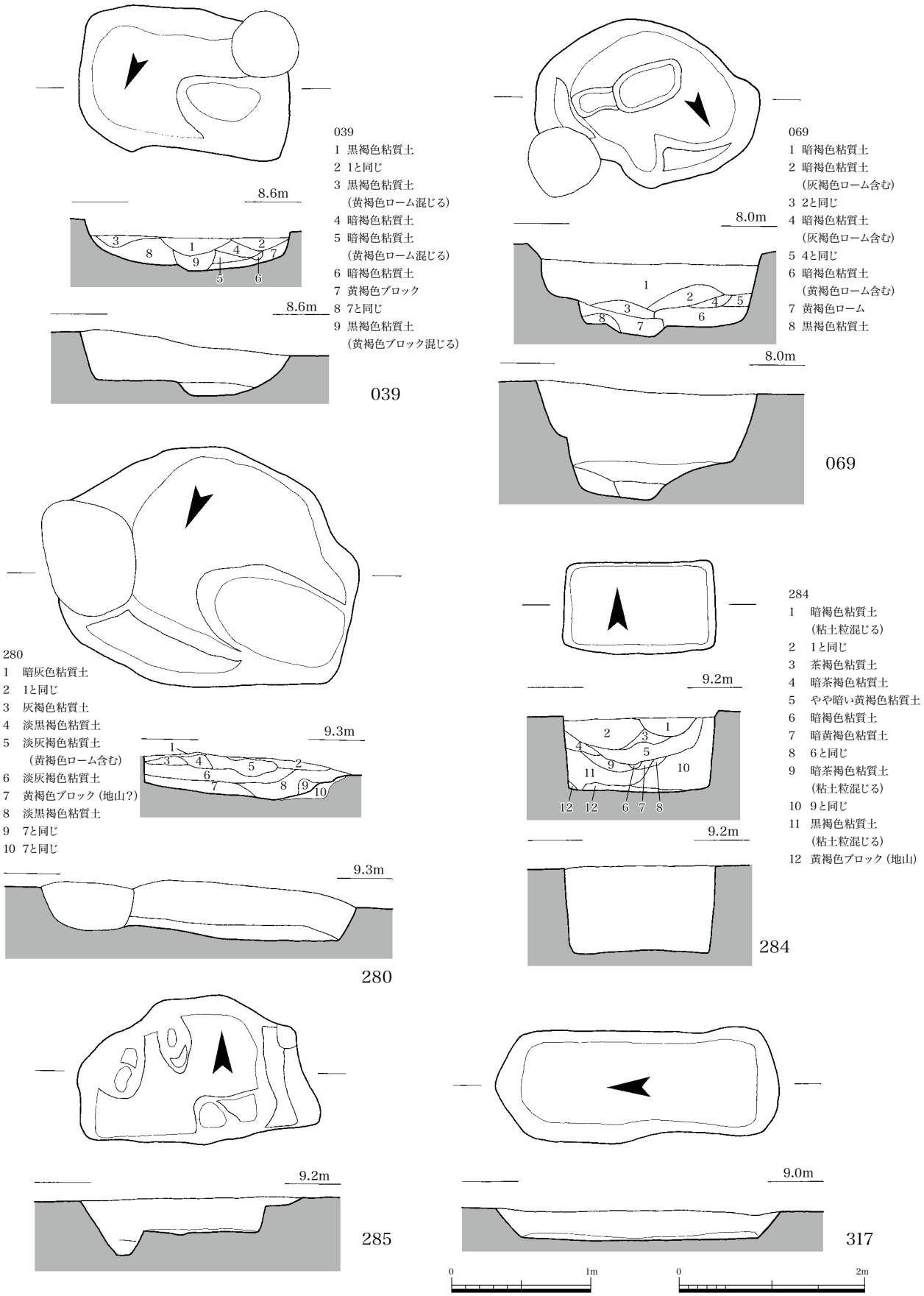
出土遺物（第８図）　11は須恵器の坏蓋。P1から出土。復元口径10.5cm、器高2.4cm。調整は、天井部はヘラ削り、その他は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色～灰色。12は須恵器の坏蓋。P4から出土。復元口径9.8cm、器高3.5cm。天井部がヘラ削り、その他は回転ナデ。焼成は不良。胎土は密。色調は灰白色。13は須恵器の坏身。P1から出土。復元底径は9cm。残存高1.4cm。底部はヘラ削りで、その他は回転ナデ。焼成は密。色調は灰白色～灰色。14は須恵器の甕。P4から出土。外面は平行叩きを行った後、一部を磨り消している。内面は青海波文様を施す。焼成は良好。胎土は1mm程の砂粒を含む。色調は灰色。34は鉄滓。P3から出土。長さ3.5㎝、幅3.2㎝、厚さ2.5㎝。色調は茶褐色。全体を錆びで覆われているが、表面は滑らか。一部滓の基地が見える。基地は黒色で緻密。

掘立柱建物06（第６図）　調査区南側に位置する。攪乱等で削平され全体の形は見えないが、３間×４間分を確認した。主軸方位はＮ－13°－Ｗ。梁行約470㎝、柱間は約150㎝、桁行約740㎝、柱間約160㎝をはかる。柱穴の平面形は隅丸長方形で、一辺約60㎝～ 80㎝をはかる。

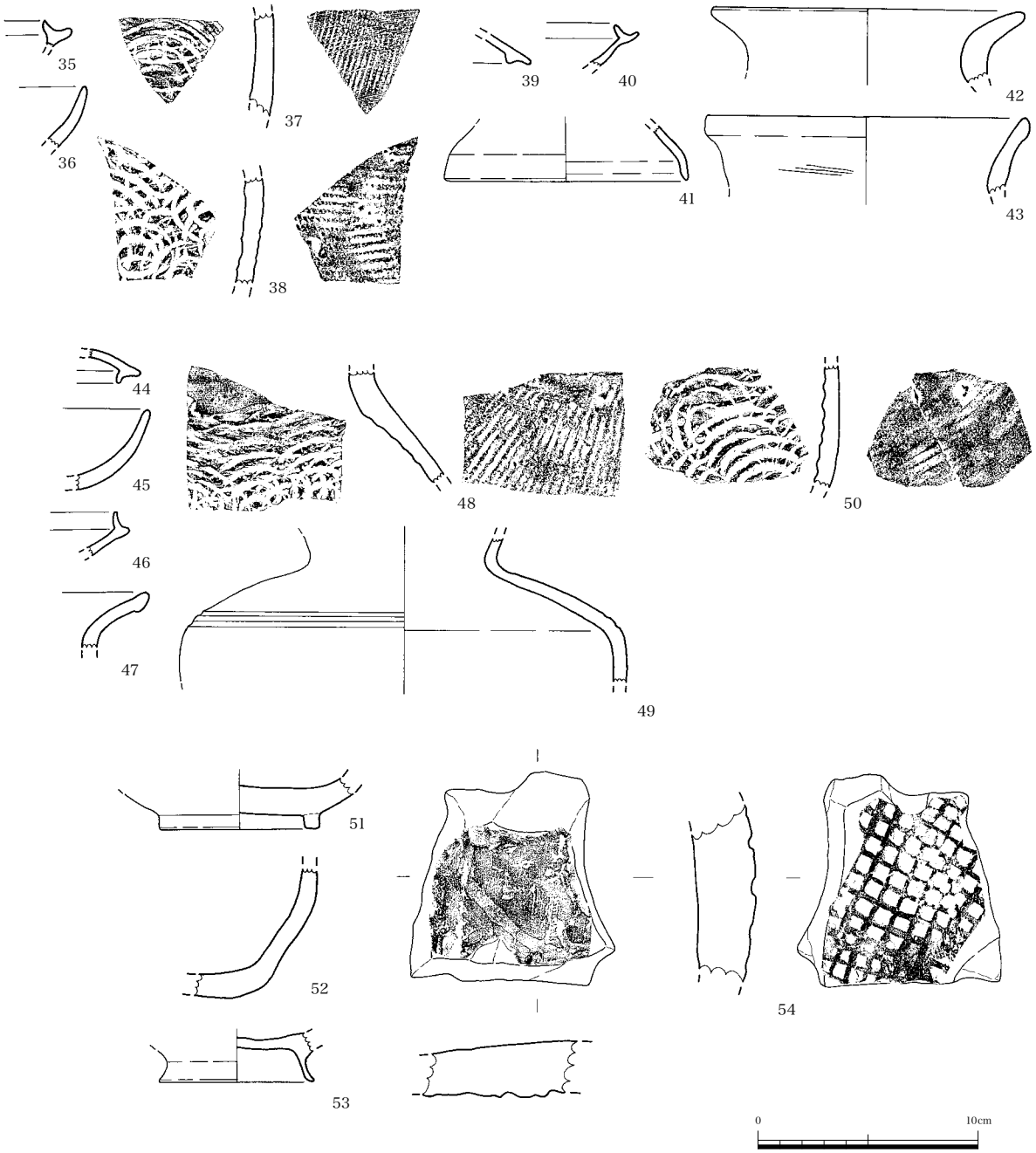
出土遺物（第８図）　15は須恵器の坏蓋。P8から出土。残存高は約2㎝。天井部はヘラ切りで、その他は回転ナデ。焼成はやや不良。胎土は密。色調は黄褐色。16は須恵器の坏蓋。P8から出土。復元口径は9.5㎝、器高2.2㎝。天井部はヘラ切り調整で、その他は回転ナデ。内面は回転ナデを施した後、ナナメナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色～灰色。17 ～ 19は須恵器の坏。17はP3から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好で胎土は密。色調は暗灰色～灰黒色。18はP2から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色～暗灰色。19はP3から出土。復元口径は11.6㎝、残存高3.4㎝。底部はヘラ切りで他は回転ナデ。内面底部はヨコナデで他は回転ナデ。焼成は良好。胎土はやや粗く、1㎜以下の細かい砂粒を多く含む。色調は暗灰色～灰色。20は須恵器の高台付の坏。P2から出土。高台径8㎝。残存高3.5㎝。高台は貼り付け。底部調整はヘラ切り、他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は１～３㎜程の砂粒を含む。色調は暗灰色～灰黒色。21は須恵器の坏。P3から出土。復元口径は10.8㎝、底径8.2㎝、器高3.4㎝。底部はヘラ切り調整で他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。

掘立柱建物07（第７図、図版４）　調査区中央に位置する。攪乱で一部削平されているが、２間×５間分を確認した。主軸方位はＮ－8°－Ｗ。梁行約430㎝、柱間は約220㎝、桁行約1030㎝、柱間は約200㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約50㎝～ 100㎝をはかる。一部の柱穴に柱痕を確認でき、そこから柱の径は約20㎝をはかる。

出土遺物（第８図）　22は須恵器の坏。P8から出土。復元口径12.3㎝、残存高2.3㎝。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗赤褐色。23は須恵器の鉢。P4から出土。残存高4.6㎝。外面はヨコナデ。内面は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。24は須恵器の坏。P8から出土。復元口径16㎝。器高5.8㎝。底部はヘラ削りで他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。



第9図　土坑実測図（280・285は1 / 40、その他は1 / 60）



第10図　土坑出土遺物（1 / 3）

色調は灰白色～灰色。

掘立柱建物08（第7図、図版4） 調査区北側に位置し、1間×1間の建物である。主軸方位はN－10°－W。梁行約150㎝、桁行約150㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約30～40㎝をはかる。

出土遺物（第8図） 25は須恵器の坏。P3から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色～灰黒色。

掘立柱建物09（第7図） 調査区南側に位置し、2間×3間の建物である。主軸方位はN－5°－W。梁行約360㎝、柱間は約180㎝、桁行約570㎝、柱間は約140㎝～200㎝をはかる。柱穴の平面形は円形～楕円形で、径約50～70㎝をはかる。

出土遺物（第8図） 26は須恵器の坏蓋。P4から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。27は須恵器の坏蓋。P3から出土。天井部はヘラ削りで他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。28は土師器の坏。P3から出土。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は橙褐色。29は須恵器の坏。P5から出土。底部はヘラ切りで他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色～暗灰色。30は須恵器の坏。P7から出土。底径は8㎝。底部はヘラ削りで、体部はナデ～回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は黄白色。31は須恵器の高台付の坏。P4から出土。復元口径12㎝、器高4.3㎝、高台径6.7㎝。高台は貼り付け。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。32は須恵器の椀。P1・4・10から出土。底径6㎝、残存高3.1㎝。底部は回転糸切り、体部は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰白色。

2）土坑

土坑039（第9図、図版5） 調査区南側に位置する。規模は長さ225㎝、幅150㎝、深さ69㎝。平面形は隅丸長方形をなす。

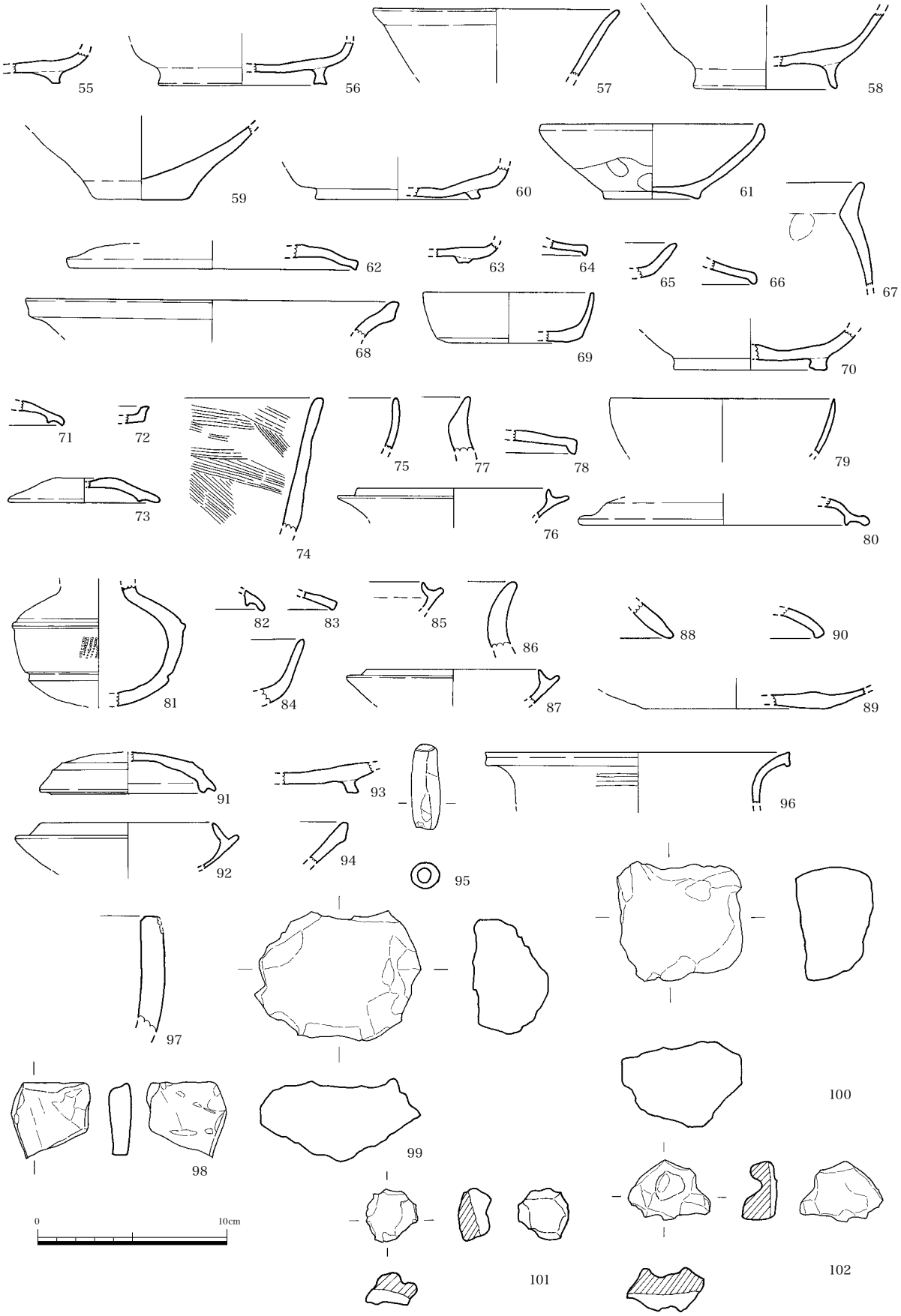
出土遺物（第10図） 35・36は須恵器の坏。35は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。36は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色～暗灰色。37･38は須恵器の甕の体部。37の外面調整は平行叩きをした後、ナデを施している。内面は青海波をなす。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。38の外面調整は平行叩きで、内面は青海波をなす。

土坑280（第9図、図版5） 調査区北側に位置する。規模は長さ220㎝、幅176㎝、深さ24㎝。平面形は楕円形をなす。

出土遺物（第10図） 39は須恵器の坏蓋。調整は回転ナデ。外面には降灰が付着している。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色～暗灰色。40は須恵器の坏。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密で1㎜程の砂粒を若干含む。色調は暗灰色。41は須恵器の坏蓋。復元口径10.8㎝、残存高2.5㎝。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色～暗褐色。42・43は土師器の甕。42は復元口径14㎝、残存高3.3㎝。焼成は良好。胎土は密で1㎜程の砂粒を少し含む。色調は橙褐色。43は復元口径14.3㎝、残存高3.4㎝。外面調整は体部には横ハケで口縁部はナデ。内面はヨコナデを施す。焼成は良好。胎土は密で1㎜程の砂粒を少し含む。色調は灰白色。

土坑069（第9図、図版6） 調査区南側に位置する。規模は長さ243㎝、幅183㎝、深さ123㎝。平面形は楕円形をなす。

出土遺物（第10図） 44は須恵器の坏蓋の口縁部。調整は内面一部に回転ナデが見えるが、他は磨耗しており不明。焼成はやや不良。胎土は密。色調は黄灰色。45は土師器の坏。調整はナデを施す。焼成は良好。胎土は密で1mm程の砂粒を少し含む。色調は橙褐色。46は須恵器の坏蓋。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。47は土師器の壺の口縁部。調整はナデを施す。焼成は良好。胎土は密で1mm程の砂粒を含む。色調は暗黄灰色。48は須恵器の甕の頚部から体部の



第11図　その他の出土遺物（1 / 3）

破片。外面は平行タタキを施す。内面の頸部はナデを、体部は青海波を施す。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色〜灰白色。49は須恵器の壺の頸部から体部の破片。調整は回転ナデ。体部最大径の部分に2条の沈線がある。体部上部に暗緑色の自然釉が付着している。50は須恵器の甕の体部。外面は平行タタキを施す。一部に自然釉が付着している。内面は同心円上の当て具痕がある。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色〜灰白色。

土坑284（第9図、図版6） 調査区北側に位置する。規模は長さ144㎝、幅96㎝、深さ90㎝。平面形は長方形をなす。

土坑285（第9図） 調査区北側に位置する。規模は長さ172㎝、幅104㎝、深さ24㎝。平面形は不整楕円形をなす。

土坑317（第9図、図版6） 調査区北側に位置し、土坑284に隣接する。規模は長さ306㎝、幅126㎝、深さ30㎝。平面形は隅丸長方形をなす。

出土遺物（第10図） 51は青磁椀の底部。復元高台径8cm。高台は貼り付け。52は須恵器の鉢の底部か。底部はヘラ切りで、他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。53は土師器の椀の底部。復元高台径は7cm。高台は貼り付け高台。底部はヘラ切りで、他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は橙褐色。54は平瓦。残存長9.4cm、残存幅9.2cm厚さ1.7cm。凸面に格子目タタキを施す。凹面は一部布目を残すが、ナデ調整を施す。焼成はやや不良。胎土は密。色調は灰白色〜茶白色。

3）その他の出土遺物

55は002出土。須恵器の高台付の坏の底部。高台は貼り付け高台。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰白色〜灰色。

56は015出土。須恵器の高台付の坏。復元高台径8.8cm、残存高2.5cm。高台は貼り付け。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。

57・58は057出土で土師器の椀。復元口径13cm、残存高3.5cm。口縁部がやや外反する。外面は横ナデを、口縁部から内面にかけてはナデ調整を施す。焼成は良好。胎土は密。色調は橙褐色。58は復元高台径7.5cm、残存高3.9cm。高台は貼り付け。内面底部が磨耗して調整が不明だが、他は回転ナデを施す。焼成は良好。胎土は密。色調は橙褐色。

59は095出土。弥生土器の甕底部。復元底径4.7cm、残存高4cm。底部と内面はナデを、外面は横ナデを施す。焼成は良好。胎土は密で1mm程の砂粒を含む。色調は明黒色〜暗赤褐色。

60は110出土。須恵器の高台付の坏。復元高台径8.5cm、残存高1.6cm。高台は貼り付け。底部はヘラ削りで、外面は回転ナデ。内面底部は不整方向のナデを施す。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色〜灰黒色。

61は120出土。青磁椀。口径11.5cm、器高4cm、底径5cm。底部は回転糸きり。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は淡灰色〜淡緑色。

62・68は131出土。62は須恵器の坏蓋。復元口径15cm、残存高1.3cm。天井部はナデ調整で他は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。68は須恵器の壺の口縁部。復元口径19.5cm、残存高1.3cm。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

63は143出土。須恵器の高台付の坏。高台は貼り付け。底部はヘラ切りで、他は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰白色〜灰色。

64・66・67・70は150出土。64・66は須恵器の坏蓋の口縁部。64は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。66は回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。67は土師器の甕。外面は横ナデを施す。内面口縁部はナデ、体部は横ナデを施し、指押痕跡がある。焼成は良好。胎

土は密。色調は黄灰色～黄褐色。70は須恵器の高台付の坏。復元高台径８cm、残存高2cm。高台は貼り付け。底部はヘラ削り後ナデ調整。他は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。65は145出土。須恵器の皿？の口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

69は144出土。須恵器の坏。復元口径9cm、器高2.7cm、復元底径7.5cm。底部はヘラ削りを施し、他は回転ナデ調整。外面一部に降灰が付着している。

71・72は153出土。71は須恵器の坏蓋口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色。

72は須恵器の高坏の口縁部？調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

73は154出土。復元口径８cm、器高1.3cm。全体的に磨耗が激しく調整不明。焼成は不良。胎土は密。色調は灰白色。

74は163出土。土師器の鉢。内面に刷毛目調整を施し、外面はナデ、黒班がある。焼成は良好。胎土は1mm程の砂粒を含む。色調は茶褐色。

75は173出土。須恵器の坏か。回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

76は177出土。須恵器の坏。復元口径10cm、残存高1.1cm。回転ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。

77は181出土。土師器の甕の口縁部。横ナデ～ナデ調整を施す。焼成は良好。胎土は１～3mm程の砂粒を多く含む。色調は黄褐色。

78は182出土。須恵器の坏蓋。天井部はヘラ削りで、他は回転ナデ～ナデ調整。焼成は良好。胎土は密。色調は灰白色。

79は192出土。土師器の坏か。復元口径11.8cm、残存高2cm。調整はナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は橙褐色。

80は201から出土。須恵器の坏蓋。復元口径15.1cm、残存高1cm。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

81は209出土。須恵器のハソウ。体部中央に刺突文を施す。底部はヘラ削り後ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色。

82・84は211出土。82は須恵器の坏蓋の口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は茶褐色。84は須恵器の坏。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

83は212出土。須恵器の坏蓋の口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

85～87は220出土。85は須恵器の坏の口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色～暗茶褐色。86は土師器の甕。調整はナデ～ヨコナデ。焼成は良好。胎土は１～3㎜程の砂粒を多く含む。色調は黄褐色。87は須恵器の坏。復元口径9㎝、残存高1.7㎝。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色～灰黒色。

88は229出土。須恵器の高坏脚端部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色。

89は237出土。復元底径9.6㎝、残存高1.1㎝。底部はヘラ削り、他は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色。

90・91は247出土。90は須恵器の坏蓋の口縁部。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は暗灰色～灰色。91は須恵器の坏蓋。復元口径8㎝、器高2.2㎝。天井部はヘラ削り、他は回転ナデ。

92は249出土。復元口径9㎝、残存高2.5㎝。調整は回転ナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰黒色。

93は290出土。須恵器の高台付の坏。高台は貼り付け。底部はヘラ削り後ナデ、他はタテナデ～ヨコナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は灰色。

94は304出土。白磁の口縁部。焼成は良好。胎土は精緻。色調は灰白色。

95は182出土。土錘。長さ4.6㎝、幅1.5㎝。調整はナデ、指押痕跡がある。

96は遺構検出の際に出土。土師器の壺。復元口径16㎝、残存高2.7㎝。外面は刷毛目調整、内面はナデ。焼成は良好。胎土は密。色調は黄褐色。

97は滑石製石鍋。071出土。残存高6.2cm。98は砥石。遺構検出の際に出土。細粒砂岩製。残存長4.1cm、残存幅4.2cm、厚さ1.2cm。両面とも縦方向に擦痕がある。

99は059から出土。椀形鍛冶滓。6.9㎝×8.7㎝×4㎝。色調は茶褐色。表面は割と平坦、ほとんどが錆で覆われているが、一部滓の基地が見える。基地は緻密。

100は遺構検出の際に出土。椀形鍛冶滓。6.3㎝×6.3㎝×4.5㎝。色調は赤褐色～茶褐色。表面は平坦、錆や酸化土砂が付着。滓の基地は緻密。

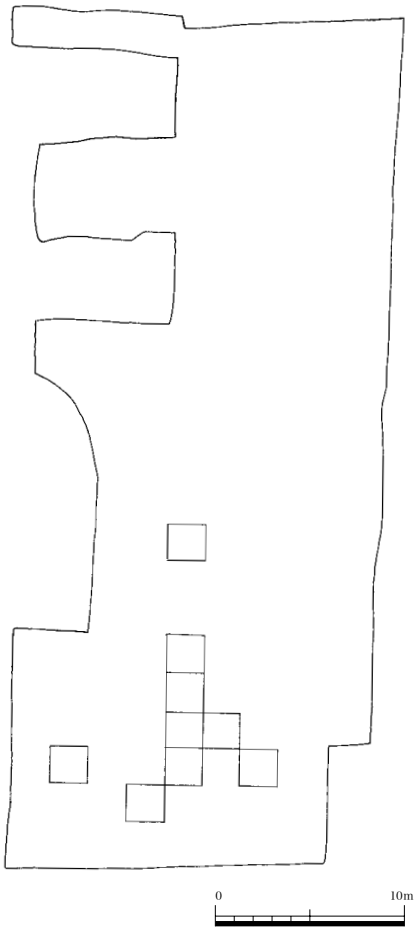
101は054から出土。炉壁付流動滓。2.9㎝×2.7㎝×1.6㎝。滓の基地は緻密。

102は021から出土。炉壁付流動滓。3.3㎝×4.3㎝×2.2㎝。滓の一部はガラス質化。

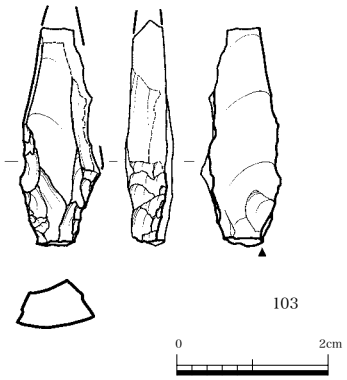
4）旧石器時代の調査（第12図）

各遺構の覆土から、旧石器時代の遺物が出土したので、調査最終段階に実測グリットに沿って、２m×２mの方形のトレンチを８ヶ所設定して、旧石器時代の調査を行った。黄褐色ロームの地山を15～20cm掘り下げたが、明確な遺物包含層は発見することができなかった。

各遺構の覆土から出土した黒曜石のほとんどは小さな剥片であり、図化できるものではなかったが、１点だけナイフ形石器が出土した。103（第13図）はナイフ形石器。石材は黒曜石。南側調査区の遺構検出の際に出土。残存高2.9cm、残存幅1.1cm、厚さ6cmを測る。基部を加工しており、両側縁に２次調整を加える。



第12図　グリッド配置図（1 / 400）



第13図　遺構面出土石器（1 / 1）

第3章　まとめ

今回の調査で検出した遺構は、掘立柱建物９棟、土坑６基、他柱穴・ピット多数である。遺物は旧石器時代から中世までのものが出土している。旧石器時代に関しては、調査区最終段階でグリッド調査を行ったが、遺構や包含層などは検出されなかった。また弥生土器も出土しているが、弥生時代の明確な遺構は検出できなかった。ただ第129次調査でも台地下低地部で弥生土器が出土しており、近隣に弥生時代の生活痕跡があったものと思われる。

掘立柱建物は９棟検出した。調査区南側では、数多くの柱穴が重複して検出された。その中には柱痕跡が観察されたものもあり、本来はさらに多くの建物があったものと思われる。掘立柱建物の規模は、1間×1間（建物05、08）から3間×4間（建物06）まで大小存在する。またこれらの建物は主軸方位によって２つに分けることができる。西に5°～20°触れる範囲にあり、およそ南北方向に主軸をとる建物01、03、04、06、07、08、09と東に70°～80°触れる範囲にあり、東西方向に主軸をとる建物02、05である。有田遺跡群の他の建物の主軸方位を見ると、南北方向に主軸をとるものと、東西方向に主軸をとるものがあり、建物の方向性は同じである。これらの建物は早良郡衙関連の建物であった可能性も想定される。ただ建物の多くは位置が重なり合って検出されているため、同時期にすべて建物があったとは考えられない。今回出土遺物から建物の時期差を見出すことはできなかった。建物の時期は、出土した遺物が砕片なため、明確な時期決定は難しいが古墳時代後期から古代としたい。

土坑は６基検出した。主に調査区の北側と南側に集中している。土坑039、069、280は建物とほぼ同時期であり、土坑317は古代末から中世初頭のものである。

本調査地点が位置する台地は八手状に延びる台地の中でも一番東にあり、既存の調査事例が少ない地域であった。そのため有田遺跡群の中でも様相がよくわかっていなかった地域でもあった。今回掘立柱建物９棟が検出され、この地域では初めて集落跡が見つかった。このことは有田遺跡群の全容を知るための一助になるであろう。また今後早良郡衙などとの関連を検討する必要があり、周辺の調査事例の増加を待って、改めて検討したい。

（１）南側調査区全景（西から）

（２）北側調査区全景（南西から）

図版２

（１）北側拡張部全景（東から）

（２）南側拡張部（東から）

（３）掘立柱建物 01（南から）

（1）掘立柱建物 02（南から）

（2）掘立柱建物 03（南から）

（3）掘立柱建物 04（西から）

（１）掘立柱建物 05（西から）

（２）掘立柱建物 07（南から）

（３）掘立柱建物 08（南から）

（１）土坑039（北から）

（２）土坑280（北から）

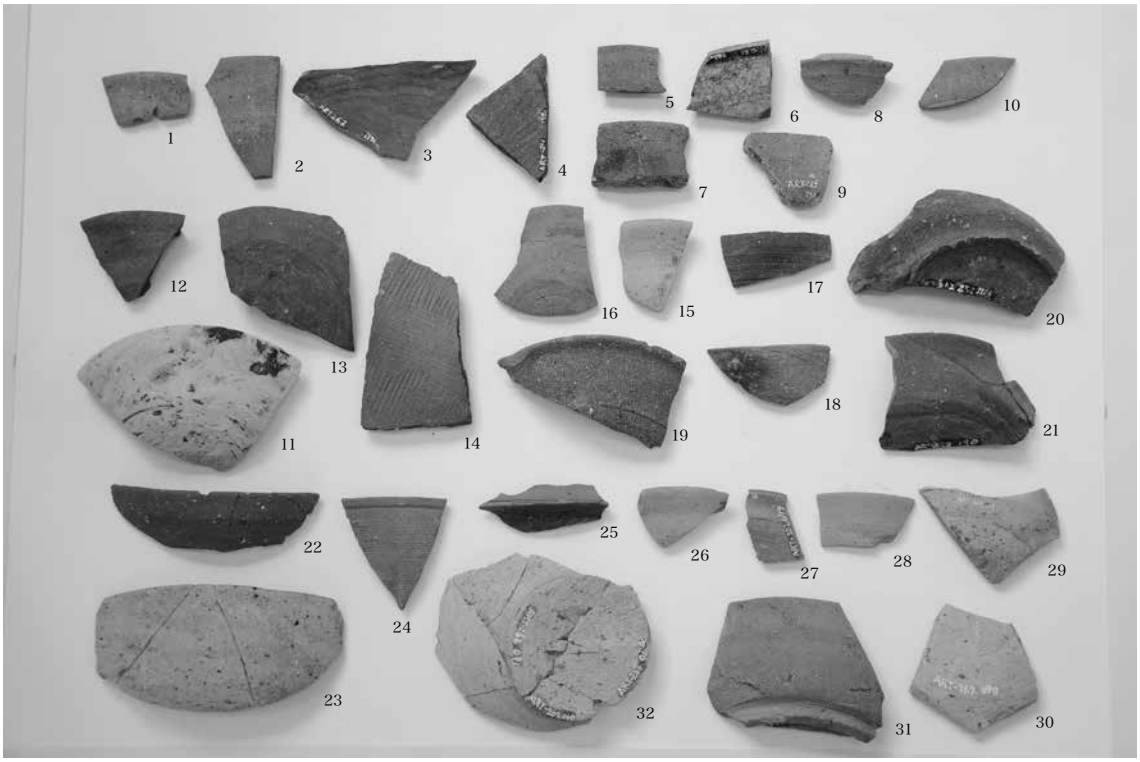
（３）土坑280土層断面（北西から）

（1）土坑 069（北から）

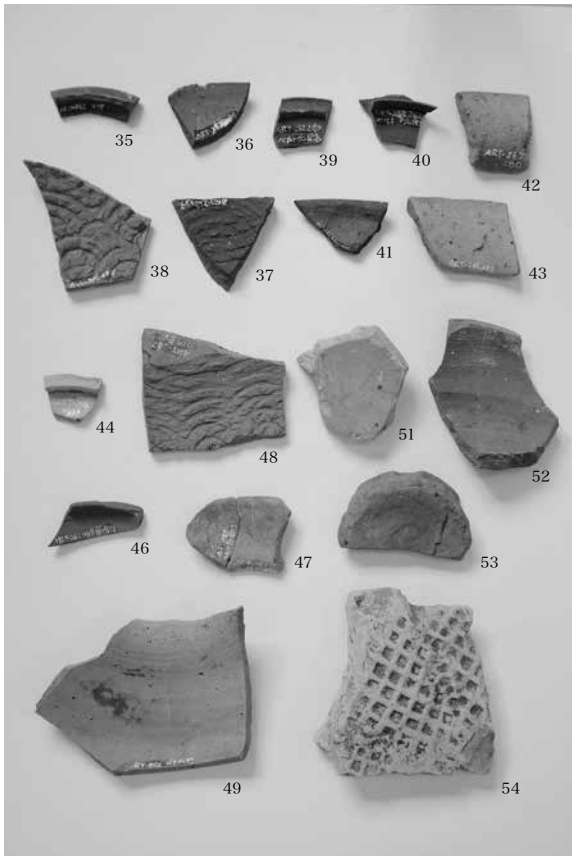
（2）土坑 284（西から）

（3）土坑 317（南から）

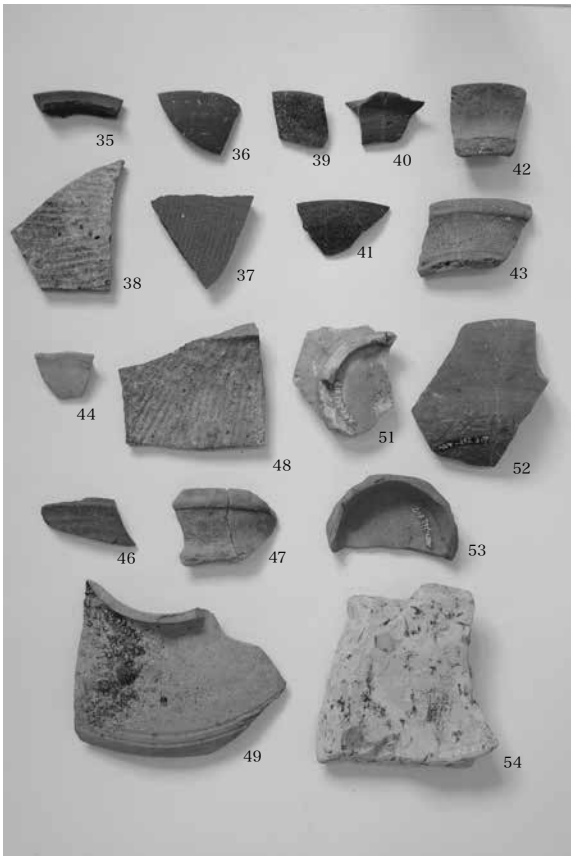
（１）掘立柱建物出土遺物（内面）



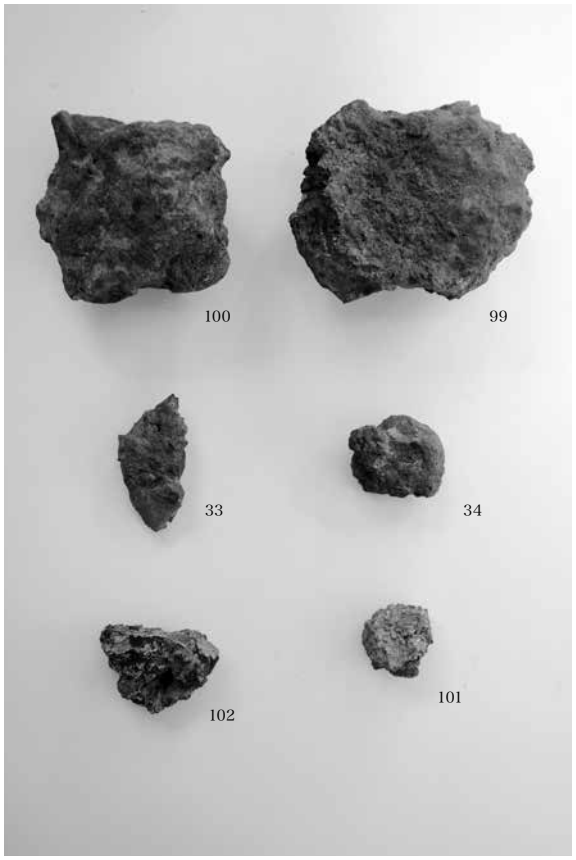
（２）掘立柱建物出土遺物（外面）



（１）土坑出土遺物（内面）



（２）土坑出土遺物（外面）



（３）鉄滓

（４）ナイフ型石器

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ありた・こたべ 57
書 名	有田・小田部 57
副 書 名	―有田遺跡群第 262 次調査報告―
シ リ ー ズ 名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1305 集
編 著 者 名	山本晃平
編 集 機 関	福岡市教育委員会
所 在 地	〒810-8621　福岡県福岡市中央区天神１丁目８番１号　　TEL 092-711-4667
発 行 年 月 日	2017 年 3 月 27 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ありたいせきぐん 有田遺跡群	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 さわらくこたべ2ちょうめ 早良区小田部２丁目 49・50・51・53	40137	309	33° 35′ 00″	130° 27′ 11″	20151104 ～ 20160203	719	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
有田遺跡群 第 262 次調査	集落	古墳時代～ 中世前半	掘立柱建物９棟 土坑６基	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、鉄滓、黒曜石	古墳時代から中世前半にかけての掘立柱建物、土坑を確認

要 約	有田遺跡群は、福岡市の中央に広がる早良平野に立地する。本調査地点は、北へ八手状に分岐して広がる有田・小田部台地の一番東側に位置する台地の西側斜面上に位置する。 今回の調査で掘立柱建物９棟、土坑６基、他柱穴・ピットを多数検出した。これらの遺構の時期は、出土遺物が砕片のため断定はできないが、古墳時代から中世前半頃までが考えられる。その他旧石器時代～縄文時代頃と思われる黒曜石の剥片が出土しており、近辺に当該時期の包含層が存在する可能性が考えられる。

有田（ありた）・小田部（こたべ）　57

―有田遺跡群第262次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1305集

平成29年3月27日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号
(092)711−4667

印　刷　國崎美峰堂
福岡市東区箱崎1丁目20－5
(092) 641−8822